

## 特集 マウスピース矯正の可能性と限界

### マウスピース矯正とは？

「カスタムメイドのマウスピース型矯正装置」とのこと、取り外しのできるマウスピースのような装置を使う矯正治療です。透明で薄い0.5mmのプラスチック用の材料を、歯型に合わせて成型したマウスピースで歯の移動を行います。



マウスピース矯正装置

ブラケットとワイヤーを使う固定式の矯正装置と比べると、装着していても目立たないというメリットがあります。固定式の矯正装置と比べると欠点もあります。治療を開始する前に、患者さんが治療方法や限界について十分に理解していることが必要です。

### マウスピース矯正の可能性

マウスピース矯正は、固定式の矯正装置よりも、歯の移動に制約があります。そのため、比較的軽度な症状の歯並びの矯正治療に向いています。

適応症としては、

- ① 上下歯列のずれが少ない（軽度の出っ歯や受け口）
- ② 前歯のデコボコが少ない（軽度のらんぐい歯）
- ③ 成人の歯並び（歯を抜かないで治療ができるもの）

透明な材料を成型した装置を装着するので、“装置が目立たない”ことが最大のメリットです。そのため、今まで固定式装置に抵抗があった方、社会人で目立たない方法で矯正治療を希望する方に通しています。食事の際は、マウスピース矯正装置を外すことができます。そのため、食事を楽しむことができます。また装置を外

して歯みがきができるので、固定式装置と比べて、虫歯になりにくいこともメリットだと考えられます。



### マウスピース矯正で重要なポイント

固定式矯正治療と同じように、治療前には顔面骨格のレントゲンを撮影して分析し、歯並びの状態や顔面骨格を調べて治療方針を検討します。顔面骨格を撮影するレントゲンを、セファログラムといいます。

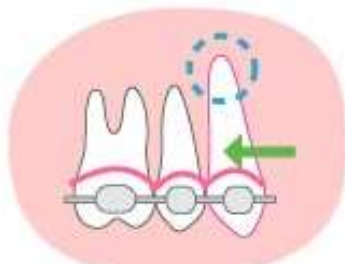


セファロ分析を行わないと“地図を調べずに目的地に行こう”としているようなものです。このセファロ分析から考えられた治療目標に向けて、マウスピース装置を歯型から成型するために、このセファロ分析が重要だと私たち矯正歯科医は考えています。

マウスピース矯正で最も重要なのは、患者さんの協力です。装置を一日20時間以上装着することが必要です。精密で高額なマウスピース矯正の装置でも、使用時間が少ないと予定通りに歯の移動ができません。

## マウスピース矯正治療の限界

マウスピース矯正装置は自分で取り外しができるので、固定式の矯正装置と比べると、歯の移動が十分に行われない場合があります。具体的に難しい移動は、“歯根の先端”の移動が難しいのです。



ワイヤーでの治療

とくに、歯を抜いて矯正治療を行う症例では、犬歯を後方に移動する際に、上の図のように“歯根の先端”までを含めた移動が必要となります。

マウスピース矯正では、このような移動が固定式矯正装置と比べると、“歯根の先端”の移動が難しく、犬歯が後方に傾斜してしまう傾向があります。

このようにマウスピース矯正は固定式矯正装置に比べ、予想通りに歯が動かないことが、起きることがあります。そのような場合には治療途中で固定式矯正装置に切り替える可能性があります。

十分な矯正治療経験を持っている矯正歯科医におい



マウスピース型矯正治療での傾向

ても、固定式矯正装置と比べるとマウスピース矯正治療で揃めるようにするのは難しいと感じることが多くあります。

マウスピース矯正治療による“歯の移動の欠点”と“治療の限界”を十分に理解した上で治療を開始して下さい。

マウスピース矯正は、装置の材料開発や歯の移動方法などが研究されています。今後、上記のような欠点が改良され、マウスピース矯正で治療可能な症例が多くなると予想されます。

矯正治療を始める際には、マウスピース矯正治療のメリット、欠点、限界などについて十分な説明を受けて下さい。治療開始時には、患者さんの納得と同意の上で（インフォームドコンセントという同意書）矯正治療を受けましょう。

